

ふじのみや探検

第17号 用水のひみつ



発行：富士宮市立中央図書館 〒418-0067 静岡県富士宮市宮町13-1 TEL:0544-26-5062 FAX:0544-26-1284

ひみつ1

ようすい 用水ってなに？ 富士宮市には、どんな用水があるの？

生活用水・農業用水・防火用水など水の使い方によって名前がつけられています。

水を飲む、野菜を洗う、風呂や洗濯に使うなど生活の中で使う水が生活用水です。今では水道からかんたんに出して使うことができますが、水道がない時代は、井戸や川から水をくんで大きなかめにためて大事に使っていました。遠くの川から水を運んだ人たちは、自分の家の近くに川の水が流れてきたらどんなに楽なことかと思ったことでしょう。

領地の大きさを石高でしめた時代は、米の取れる量をふやそうと、領主や領民はともに米づくりにはげみました。新田開発もその一つで、畑や荒地を水田にするために用水路をつくりました。米の増収につながる用水路の整備は、国の重要なしごとでした。

富士宮市の小学校社会科地域学習資料「ふじのみや」には主な用水が34紹介されています。用水路の整備は、古くは鎌倉時代から始まり、生活や農業のために川から水を引き、親しみのある名をつけ大切に守ってきました。そこには自然の脅威と戦いながら、人々が協力して困難を乗り越えてきた苦難の歴史があり、すばらしい英知がみられます。

◇ことばの説明

○石高…その土地から米がどれだけ生産できるかを石という単位で示した。

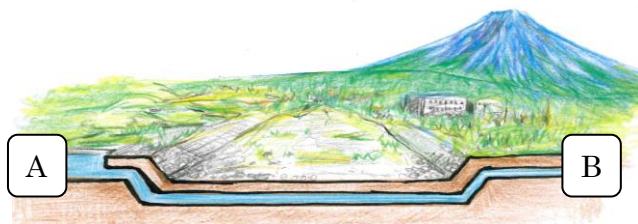
1石=150kg=180リットル=米俵2.5俵です。昔は「1石はおとな1人が1年に食べる米の量」と考えた。

NO	用水名	取水口名	取水河川名	築造年代
1	人穴用水	笹 峯	芝 川	江戸末期
2	大橋用水	笹 峯	芝 川	明治初期
3	中村用水	中 村	芝 川	昭和初期
4	足形下用水	坂 下	芝 川	江戸末期
5	内野用水	北 谷 戸	芝 川	鎌倉時代
6	北山用水	大 井 口	芝 川	江戸初期
7	半野用水	和田川原	芝 川	永禄年間
8	原 用水	山 神	芝 川	永禄年間
9	上井出用水	芝 山	芝 川	不 明
10	狩宿用水	滝 元	芝 川	不 明
11	大堰用水	大 堰	芝 川	江戸初期
12	中堰用水	水ノ口	芝 川	江戸中期
13	新堰用水	徳 瀬	芝 川	江戸後期
14	代官寺用水	川 欠	芝 川	江戸初期
15	長瀬用水	前 田	芝 川	不 明
16	安居山用水	燕 堰	芝 川	天保年間
17	江柏用水	中川原	足取川	大正初期
18	風祭用水	風 祭	風祭川	江戸末期
19	阿原口用水	阿原口	潤井川	江戸末期
20	野中用水	東 田	潤井川	江戸末期
21	黒田用水	泉	方辺川	明治後期
22	木ノ行寺用水	木ノ行寺	弓沢川	明治24年
23	桜田用水	桜 田	弓沢川	江戸末期
24	山本谷戸用水	谷 戸	潤井川	明治初期
25	水久保用水	貯水池	大堰川	江戸初期
26	長貫用水	長 貫	富士川	不 明
27	三区用水	三 区	芝 川	不 明
28	新堰用水	新 堰 堰	猫沢川	不 明
29	大久保用水	西山発電所	西山発電所	江戸末期
30	羽耐用水	西 山	安居山用水	江戸時代
31	久保用水	久 保	芝 川	明治以前
32	鈴又用水	鈴 又	芝 川	明治初期
33	下堰用水	下 堰 堰	三沢川	不 明
34	洞堰用水	田 尻	三沢川	明治以前

ひみつ2

用水を通す工夫・技術は？

北山用水は芝川の水を内野の横手沢から取り入れ、そこから70mほどで川はばが70~80mもある猪の窪川を横切っています。この川はかれ沢で、ふだんは水が流れていないので、川底をほって木製の樋を埋め、パイプのようにして水を通しました。下図のAから水が下にむかって流れ、さらにBのところにもむかってのぼり、Aと同じくらいの高さまで水が上がってきます。この仕組みを考え通水した技術が注目されます。



猪の窪川の埋樋イメージ図

この技術が江戸時代の初めにあったことがすごいことですね。後に、木から石の樋に変わり、さらに平成の改修でコンクリートに変わりました。むかしの石樋は一部遺跡として、Aの場所に保存されています。本妙寺の北側では、沢にかけられた掛樋(用水の橋)を見ることができます。同じように潤井川から取水した野中用水や方辺川から取水した黒田用水も、潤井川に用水の橋をかけています。

柚野地区では、江戸時代後期に、芝川から大堀用水をつくり、大鹿窪、西山まで水を引きました。さらに西山から羽鮒山に隧道(トンネル)をほって、安居山や沼久保に水を引くことを考えました。トンネルを1500mもほって水を通す工事は、たいへんむずかしことで中止になりましたが、地いきの人々の強い願いで再開され、明治28年に完成しました。注目されることは、じっさいに測量をして、空気穴や脱出用の穴もほり、安全対策がたてられていたことです。

明治36年の冬、地震でトンネル内が落盤しましたが、脱出用の穴のおかげで作業員16人の命が助かりました。この地震後、村人たちは、小さな脱出用の穴を「いのち穴」と呼び、現在でもむかしのまま保存しています。

◇ことばの説明

○落盤…トンネルの中の天井やかべがくずれること。

ひみつ3

用水路ができて何がか変わったの？

新しい用水路のおかげで水田がふえ、米がたくさん生産され、飢饉にも備えることができました。また、用水路に水車をかけ、精米・精麦・製粉のしごとが楽になりました。水車のおかげで、粉製品が豊富になり、食習慣も変化してきました。用水路ぞいに人がくらすようにもなりました。



(水車のある風景 中井出)

新たな用水路づくりは、さらなる用水路や田をつくることにつながりました。人々が協力をして用水路や田をつくることで、仲間意識が高まり、強いきずなが生まれました。いっぽう、新田が次々に開発され、水をめぐって争いが起こりました。人々は、暴力ではなく話し合いで解決することを大切にしました。川の上流の人たちが下流の人たちのことも大切にしました。そして、互いが納得する約束をつくり文章に表すことで、問題が起きにくくなりました。小さな村社会の意識から大きな村社会の意識へと変わりました。



角田家に伝わる

九カ村用水使用規定
万野区誌より抜粋

新しい用水路は、まだ水のこない人々の期待感を高めました。万野用水路はつくられても、水がしみこみやすい土地なので、とちゅうで地下にすいこまれてしまいました。それでも大宮町の人々はあきらめず、協力して工事をすすめ、ついに水が万野原まで来ました。

◇ことばの説明

○飢饉…長期にわたる冷害・水害などの異常気象や害虫の異常発生、病害、火山噴火などで、死者がおおくでるような食糧不足のこと。

江戸時代は、幕府の役人が用水路などの工事にあ
 っていました。北山用水の井出志摩守、万野用水
 の伊那備前守、三区用水の土井奉行らは、用水路の
 工事責任者として熱心に取り組み、領民から感謝
 されました。

万野原では、芝川道順は21年の歳月を用水づ
 くりなどの開拓にささげ、その子孫三右衛門もこ
 ろざしを受けつぎ、さらに角田桜岳も用水路を修理
 するなど尽力しました。

安沼用水では、山川伊十郎、佐野銀蔵らの意志
 を受けついで大中里・安居山・沼久保の6人衆が
 いました。お金を出して工事を前進させた小野金六
 は富士身延鉄道（今のJR身延線）をつくった人で
 す。

星山用水も、深沢安兵衛と源五左衛門の長年の
 熱意で実現し、村人や旅人から感謝されました。

安養寺の恩智和尚は、寺の北側にある不動滝か
 ら隧道をあけて水を通し、杉田用水のもとをつくり
 ました。



用水づくりにかかわったリーダーの活躍が、いく
 つも伝わっています。あるべき姿をめぐして、た
 とえ一人になっても続けるという強い意志をもち、
 粘り強く取り組んでいたからこそ、協力する人や後
 を受けつぐ人が出てきたと言えます。

◇ことばの説明

開拓…山林や原野を切り開いて田畑や住居、道路を
 つくること。

昭和7年大宮町大火がきっかけとなり、大火事に
 備えるために水道事業が計画されました。湧玉池の
 そばに大宮水源をつくり、簡易水道として、昭和
 11年9月1日に給水を始めました。

その後、市町村の合併や各地の簡易水道と統合し
 たり、水の需要が高まり新たに水源を求めたりしな
 がら、水道事業を進めてきました。

主な事業

第1次…昭和32～36年度 この間に富士宮市と
 上野村は合併し、椿沢の湧水を水源に加
 え、富士宮市上水道としました。

第2次…昭和38～39年度 合併により、給水
 区域を変更して給水能力を高めました。

第3次…昭和42～43年度 貫間、淀師に地下水
 源を求め、さらに北山広域簡易水道を統合
 しました。

第4次…昭和45～49年度 北山用水から取水す
 る北山浄水場を建設し、配水量を確保
 しました。

第5次…昭和51～55年度 杉田地区に地下水
 源を求め、安定した給水をしました。

第6次…平成9～17年度 村山3区の簡易水道を
 統合し、堀之内配水池を築造しました。
 さらに青木平住宅団地簡易水道を統合
 しました。

第7次…平成20～27年度 上井出、猪之頭、
 白糸の簡易水道を統合し、新水源地を設置
 しました。さらに紫外線照射による浄水
 処理をとりいれました。

安心しておいしい水を飲むことができるのは、水
 道のおかげです。富士山の湧水や地下水を浄水して
 市民の皆さんに提供しています。

◇ことばの説明

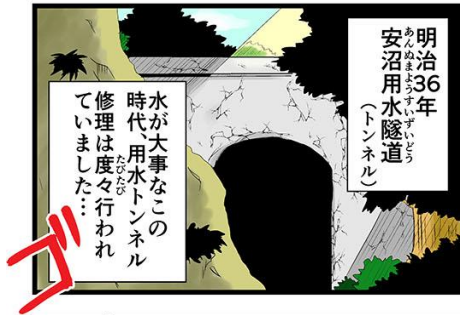
簡易水道…給水人口が100人から5,000人以下の水
 道をさします。5,000人以上は上水道と呼びます。

需要…必要とされているということ。

地下水源…村山3区の簡易水道は、地下222mまで
 ボーリングし、地下水をくみあげています。

いのち穴

by Y.N.



おおくぼざわ かけどい
本妙寺北にある大久保沢の掛樋
昔は木製だったが、今はコンクリートです



い くぼ うめどい
復元保存された猪の窪川の埋樋(石)

平成15年 改修工事

◇『第17・用水のひみつ』は、次の資料をもとに作りました。

- 1 『富士山は里山である』 中山正典／農山漁村文化協会 2013
- 2 『本門寺用水のこと』 富士宮市北山用水運営協力委員会／マグナプロセス 2006
- 3 『大堀安居山用水のはなし』 佐野十三郎／緑星社 1981
- 4 『野中用水』 深沢彪／緑星社 1987
- 5 『富士根北部の水とくらし』 宮澤悟／きうち印刷 2000
- 6 『ふじのみや-小学校社会科地域学習資料-』 富士宮市教育委員会／マグナプロセス 2014
- 7 『日本の米づくり』 常松浩史／岩崎書店 2015
- 8 『水車むらへようこそ』 臼井太衛／樹心社 1993
- 9 『萬野区誌』 万野区誌編纂委員会／マグナプロセス 2001
- 10 『富士宮市水道事業のあらまし』 富士宮市水道部／きうちいんさつ 2014